企業がインクルーシブな障害者雇用を進める為に障害者雇用相談援助事業ができること

○片桐　さおり（特定非営利活動法人コミュネット楽創　障害者雇用相談援助事業担当）
北川　十一　（特定非営利活動法人コミュネット楽創　障害者雇用相談援助事業担当）

１.はじめに

・コミュネット楽創は働く希望を持っていれば障害種別を問わずすべてを支援対象とし、IPSモデルに準拠した就労支援を行ってきた

・2024年に障害者雇用相談援助事業の認定事業主となりこれまでとは違い障害者雇用を行う企業を支援する事業を開始した

・企業のインクルーシブな障害者雇用を目指し相談援助事業に挑んだ背景と実施状況を報告、課題を含めて考察する

２.背景

- 精神障害者の小規模作業所から始まったNPO法人
- IPSモデルに準拠した個別就労支援
- 半数が障害者求人以外の求人に就職
- 働く中で必要な知識経験を身につけていくことを重視するため就職直後から可能な限り企業との接点をもつ
- 職場開拓、職場定着として一般企業とのやり取りは頻繁に行われる

2.背景

手をかけられない

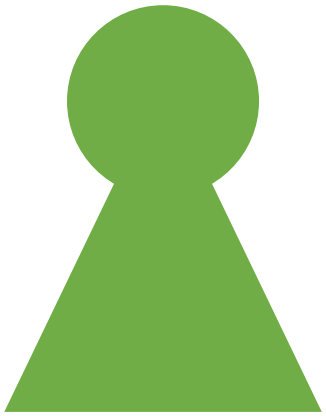
人をあてられない

切り出す業務がない

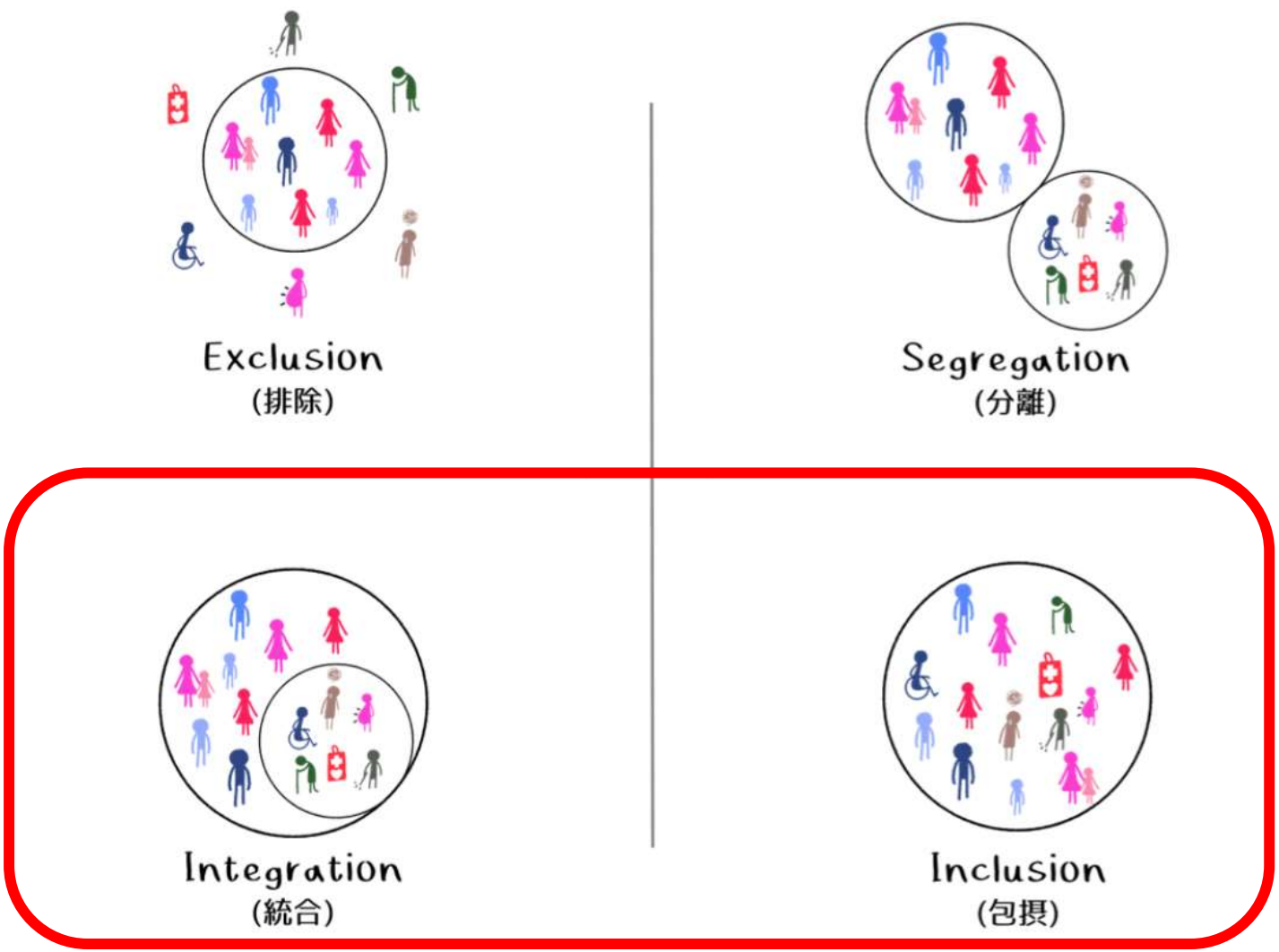
単純作業の量がない

職員にゆとりがない

清掃は外注だし

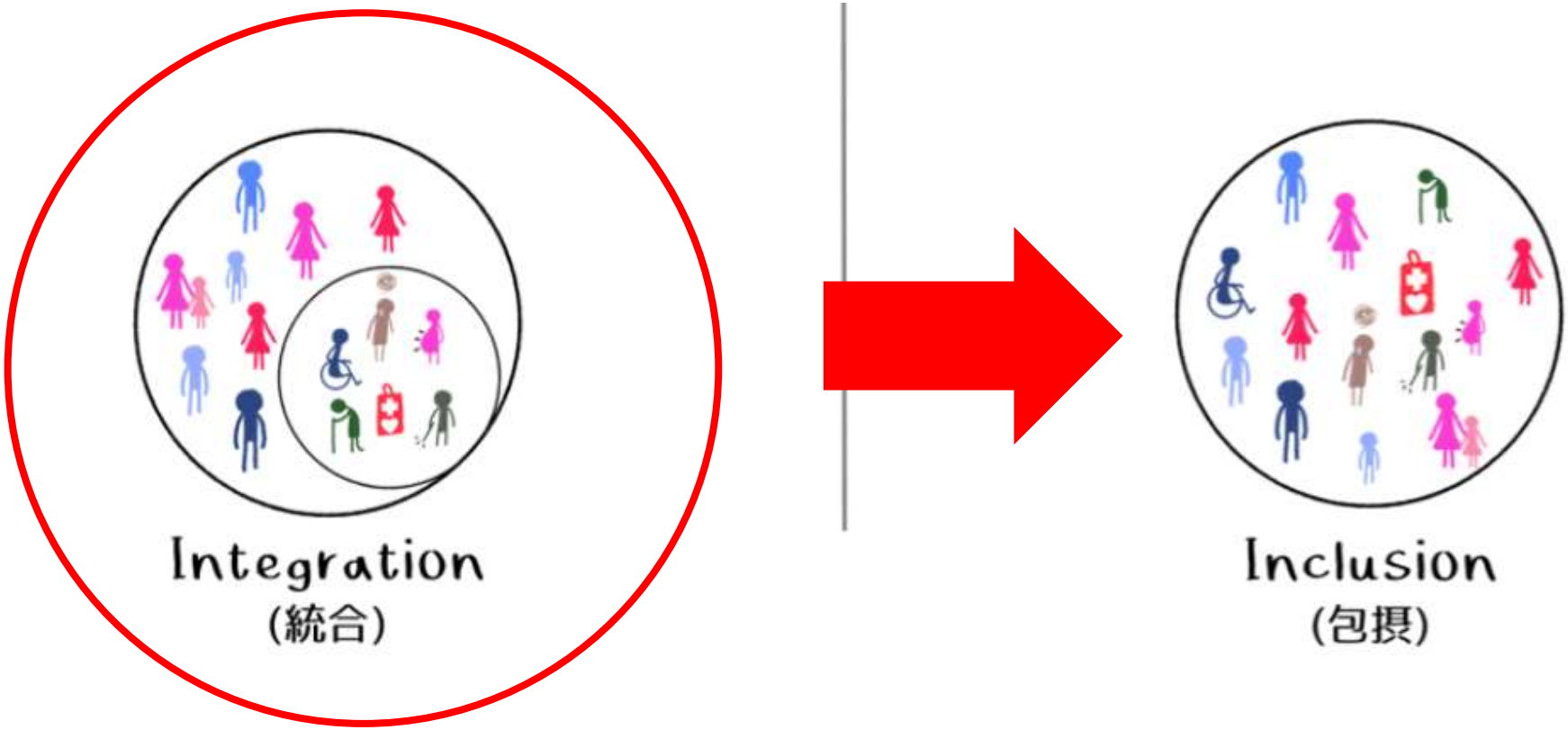


2.背景



JIPSAホームページよりhttps://jipsa.jp/ips/ips#9

2.背景



目指すのはインクルーシブな雇用

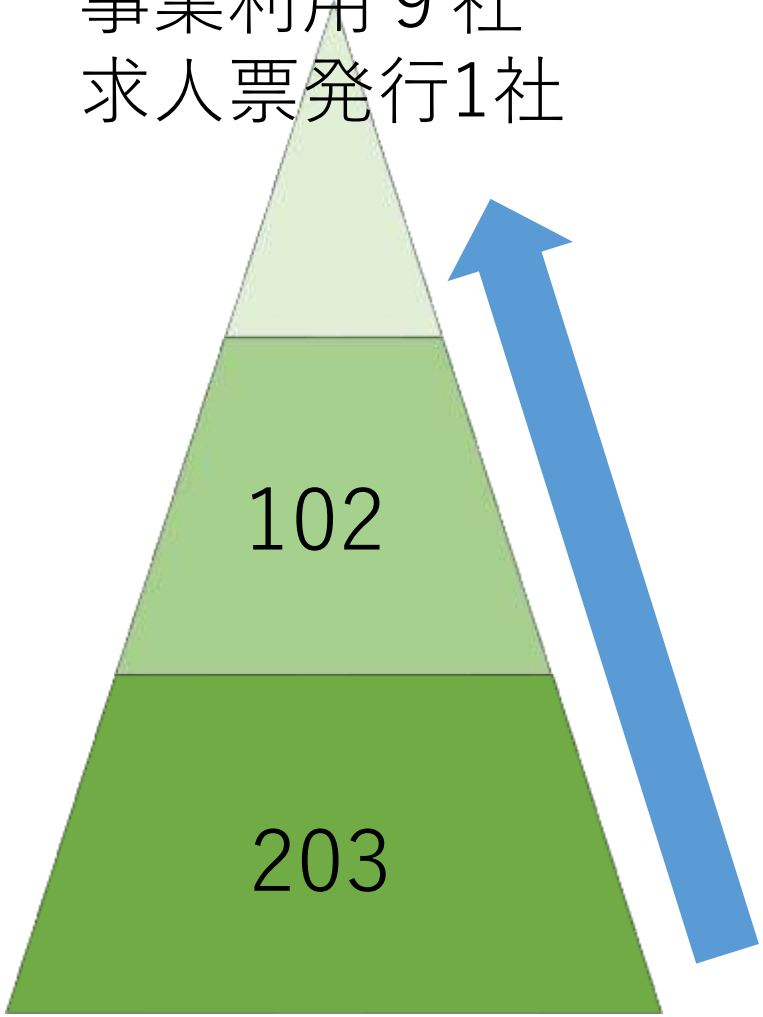
JIPSAホームページよりhttps://jipsa.jp/ips/ips#9

3.実施状況

- 企業へ向けた事業説明資料がほぼない
- 独自で広報用フライヤーを作成
- 企業にどのようなメリットがあるかを明確に

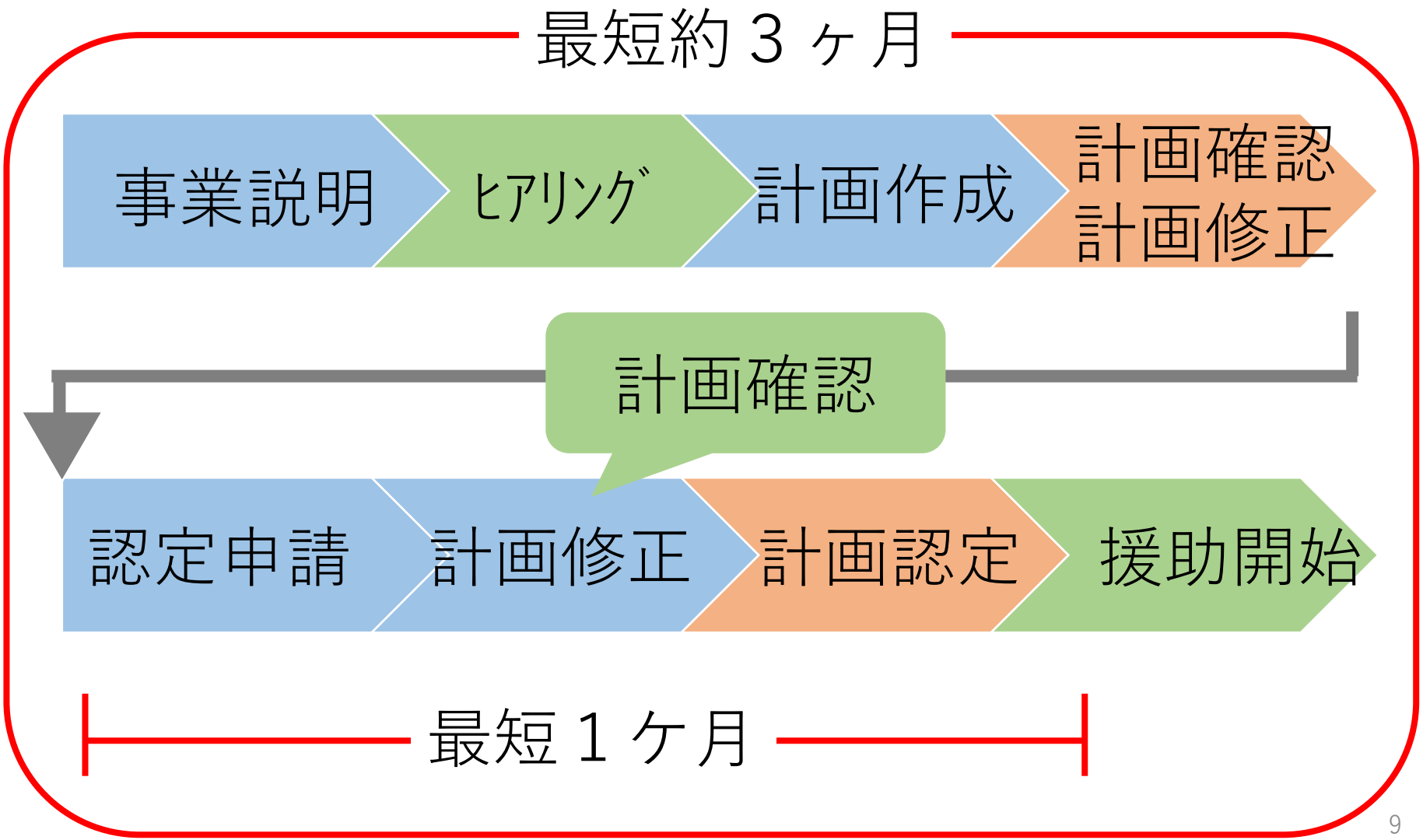
３.実施状況

事業利用９社
求人票発行1社

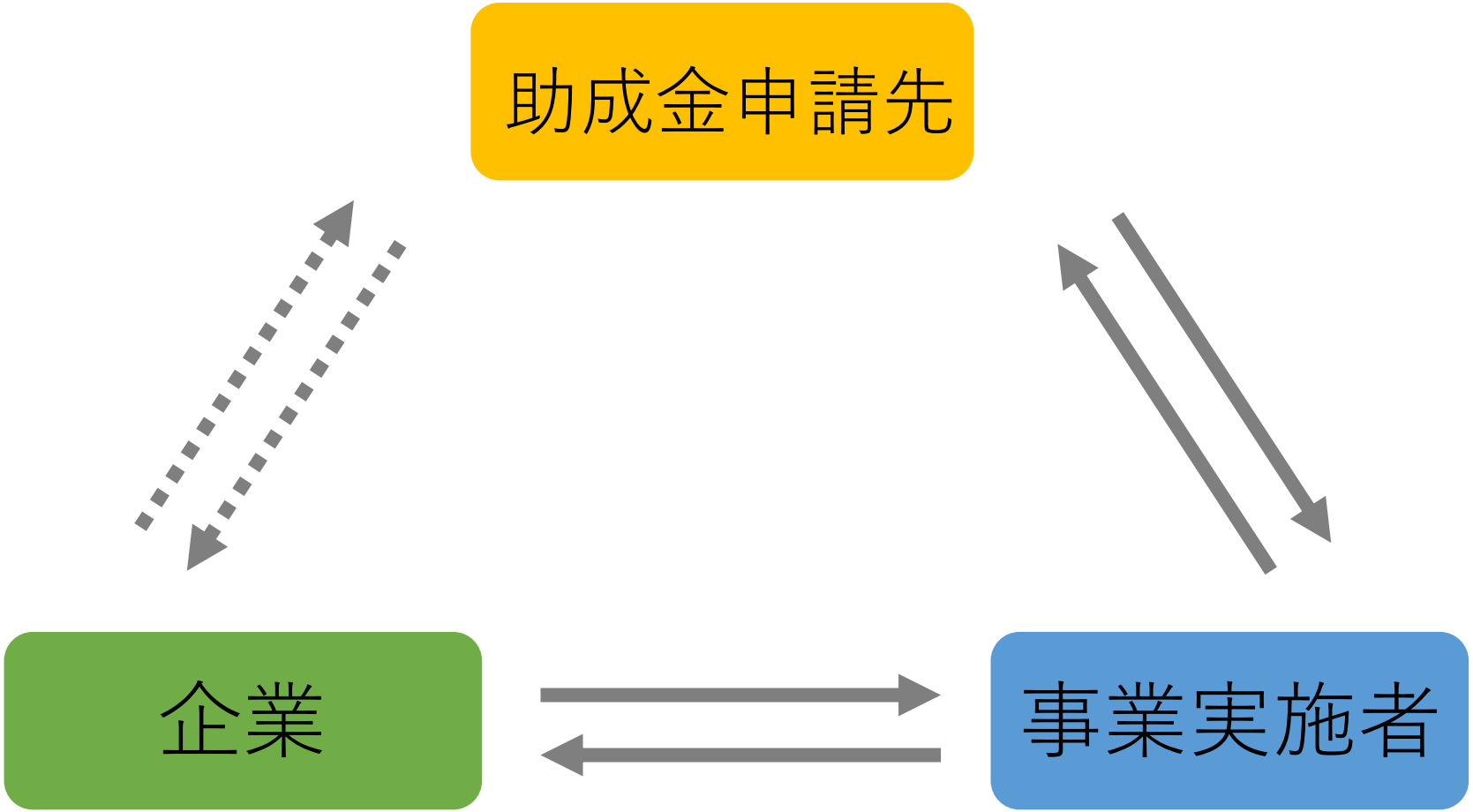


- 事業が認知されていない
- 思っていた連携ができない

4.考　察


最短約３ヶ月
事業説明
ﾋｱﾘﾝｸﾞ
計画作成
計画確認
計画修正
計画確認
認定申請
計画修正
計画認定
援助開始
最短１ケ月

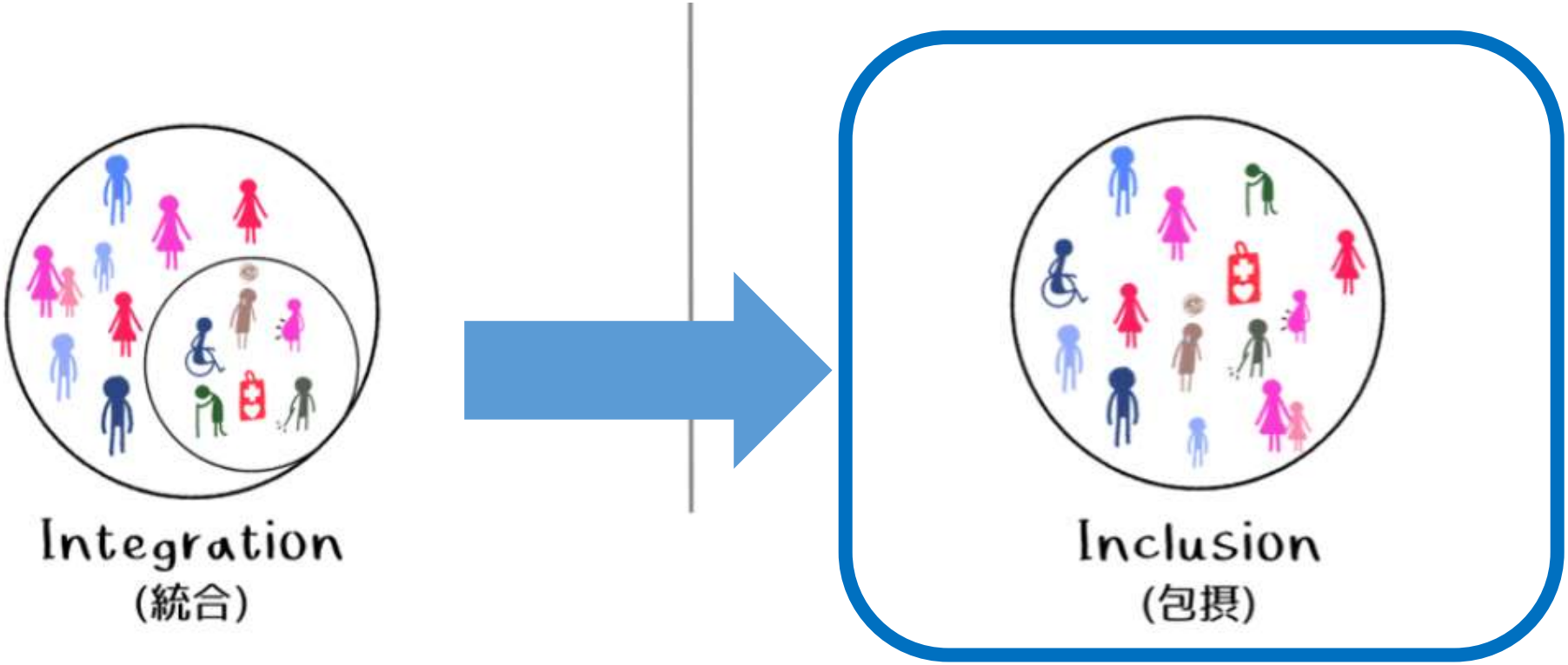
４.考　察



まとめ

- 認知度が低く、思っていた協力はなかなか得られなかった
- 企業はどうしてよいか困っている
- 中小企業の障害者雇用を進めていくにはインクルーシブな障害者雇用が必要
- 北海道での障害者雇用を進めるために障害者雇用相談援助事業を活用していきたい

5.まとめ



目指すのはインクルーシブな雇用

JIPSAホームページよりhttps://jipsa.jp/ips/ips#9